

新春対談

「これからの観光地に
求められるもの」

(出演者)

阿蘇市長 佐藤 義興

阿蘇市観光協会長 稲吉 淳一氏

阿蘇温泉観光旅館協同組合女将の会ゆうすげ会長 和田 久美子氏

阿蘇市地域振興マネージャー 前田 香保里氏



観光の現状

市長 現在の状況として、まず昨年を振り返りますと3月11日に東日本大震災が発生し、その翌日が九州新幹線全線開業でした。各地域でたくさんのイベントが計画されていましたが中止になりました。もちろんその時はあれだけの大災害ですから中止するのが当然のことです。その後、数ヶ月においては新幹線の効果が表れる気配はありませんでしたけれども、夏以降になって、やっぱり日本は元氣になって頑張ろうという気持ちの転換もあって、旅行に出かける人、いろんな方が新幹線を利用してお越しになるようになりました。

夏以降、JR豊肥線阿蘇駅の利用者はなんと前年の1.4倍にもなっており、特に6月から特急「あそぼーい！」と称して景色が楽しめ、また子どもさん連れでも車内に遊び場があるという特別な列車を作っていたのだとか。夏以降お客さんが多くなってきました。特にレンタカーの利用率も多くなっていますし、阿蘇山の火口に行くバスも8月だけで約8,200人、大観峰や手

野の名水を巡るギャラリーバスも10月に約400人を超える稼働となっております。

稲吉 やはり旅館等では、4月5月6月は震災の影響が非常にありました。海外の団体ツアー客はまだまだ少ないですね（昨年比49%減）。ただ、阿蘇駅へよく送迎で行きますけれど、海外の個人客は非常に多くなっている。特にフランス人などヨーロッパ系の個人旅行のお客が増えており、外国のお客様が天気のいい阿蘇山をバックに歩いている姿を見ると、阿蘇が国際化豊かになってきたなという印象を受けます。

また「あそぼーい！」が開通してからJRを利用したお客様が増えています。去年と比較した阿蘇市への宿泊数は、昨年が4月～11月28万6千人に対し、今年は新幹線の効果も出ていまして、現在前年と比べ2千人の増加となっています。今年新幹線が開通していなかったら、半減で終わっていたかもしれません。私たち観光協会も商工観光課や旅館組合と連携して広島以东に対し集客キャンペーンを進めて参りました。そ

受け皿、入込客への 取り組み

の成果もあり、中国地方からのお客様が昨年比122%増、関西方面からのお客様は昨年比212%増。九州新幹線開業効果によるお客様が非常に増えたというのが、私たち旅館業の印象です。

和田 現在、旅館組合の方では「阿蘇カルデラツアー」という「着地型旅行業」、「源泉かけ流しの会」、「女将の会」の3本柱で活動しています。「阿蘇カルデラツアー」とは、阿蘇でしか味わえないもの、阿蘇ならではのもの、宿泊しないと体験できないものなど四季折々の阿蘇を体感していただくツアーです。源泉かけ流しの会では、温泉の源泉の保護・管理をしたり、温泉入浴指導員の養成を行っていただきます。女将の会では、健康をテーマに「健康・ダイエツツアー」を企画し、モニターツアーを実施したところ大変好評をいただきました。また、地域の皆様とのふれあい、観光客の方々にいろんなご案内をしたいと、8月1日、内牧に旅館の女将さん方が共同で行う



6月から運行を開始した観光特急「あそばーい!」。土・日・祝日に運行し、多くの乗客で賑わっている。

「女将カフェ」をオープンしました。この件では前田さんにアドバイスやお手伝いいただきながらなんとかオープンまでこぎつけ皆大変喜んでいきます。

前田 「女将カフェ」のオープンは、大きなトピックスだったと思います。内牧を訪れた方が、ちよつと休んだり、疲れた体を癒してもらうような「ホッとするような場所」のような形で今あると思うんですね。ここに至るまでの女将さんたちの努力とか工夫されている姿を見ると、オープンしたときは感慨がひとしおでした。益々多くの方にご利用いただけたらいいなと思っています。

稲吉 私が観光協会長になって2年目になりますが、当初から若手の観光業の人たちみんなで何かしようということ、20年後、30年後の阿蘇を語ろうと、月に一度集まっています。

その中の企画として「阿蘇の夜あるこーる」という、地元の居酒屋やスナックの皆さんと連携して、ちよい飲み、チケット1枚で700円分の食べ物と飲み物が付

きますよ、という企画を行いました。ちよい飲みで、居酒屋に気軽に行けるようにした工夫で、地元の方々に喜ばれ、新たなお客さん呼び起こすことにつながりました。居酒屋やスナックの方々に前向きに取り組んでいただいて、今後は観光客の方も立ち寄れるよう企画していきたいと思っています。

市長 市の方では、JRで来た際の表玄関口、阿蘇駅周辺の環境整備を行いました。訪れたお客さんに喜んでもらおうとASO田園空間博物館での物産の直売、案内所での情報発信、レンタルサイクルなどを行ってきました。今度新たにプラットホーム事業として、草千里から火口駅までの区間もレンタルサイクルをしようと計画しています。

そして観光のシンボルである草千里の水が、どうしても溜まってしまう状態でもあり、この原因をきちんと調べていつも水が溜まっている状態にできるよう取り組みを進めています。阿蘇山上の停止していたスキー場リフトの撤去工事でも景観のため行っている最中です。また、内牧に子どもさんが遊

8月にオープンした女将カフェ。



べる公園「あそびバ」を、地元の方々の利用はもちろんのこと、観光客の方々にも立ち寄ってもらえるような施設として作りました。入場が年間に3万人だったのが今は3万5千人と増加。今後も皆さんと一緒にこの事業をさらにいいものに変化させていきたい。進化をしながら魅力あるものにしていきたいと思っています。

前田 阿蘇市はいろんな取り組みをされているなと思います。こちらにきた印象として、いろんな所でいろんな方々が訪れた人たちを受け入れたいと活動されている小



家族のふれあいと地域交流促進の場として定着した阿蘇内牧ファミリーパーク「あそ☆びバ」。徐々に入場者も増えています。

さな動きをとっても実感します。こうした一つ一つの取り組みは重要です。こうした動きがどんどんつながって活発になっていくと良いと思います。

稲吉 「あそ☆びバ」は観光客に非常に人気です。小さいお子さんは阿蘇へ来てもやっぱり遊具が一番好きなんですよ。チェックイン後、内牧の散策に紹介すると、「こんなすごい所があったんですね」と満足して帰ってこられます。

す。管理人の方がいるのが安心のようです。まさに内牧の人気スポットと言えます。

市長 隣の中央公園も活かしている。こうと、旅館組合と一緒にイルミネーション、とくにライトアップがメインとなっていていますが、美しい光の名所をつくりましたが、一年一年継続してボリュームアップをし、愛される取り組みをしていきたい。池にも、船をいただいたので、いつか船を浮かべて遊べる環境も整えたいと考えています。

稲吉 内牧の中が進化していくと、お客さんに昔みたいに歩いていただけるんじゃないかなと思います。内牧の強みは6千人の宿泊収容施設がありますので、泊り客を引き出す工夫をする。そこからまちづくりが始まるものと思います。

変わってきた旅行の形態

前田 かつて旅行というと、パンフレットで選んでツアー会社に申し込んで、大きなバスで一気に有名観光地に行くというのが主流でしたが、今は少数で、家族、友だ

昨年末に整備した「中央公園ライトアップ」。新たな観光スポットとして集客が期待されます。



ち同士、そして一人旅がとても増えています。目的地の選択にしても、今は有名地にも行くが穴場とか、まだ知られていない秘密の場所とか、そういった所を選んで行く。インターネットでの口コミで、パンフレットに載ってない所でもどんどん広がっていています。一緒に旅行する人数、目的地、旅行の目的、旅行情報の取り方など、昔と比べて大きく変わってきていると思います。

稲吉 旅行の人数の形態というのは震災以降変わったように思います。「絆」というものを考えさせられ、家族単位、恋人同士、三代家族が多くなり、ゆっくりした時間を過ごす一人旅も増えています。確かにインターネットで事前

に阿蘇のことを調べて来る方が多く、穴場の情報には、旅館のスタッフの方が知らずに困ってしまう場面もよくあります。

和田 大きな団体客が少なくなりました。賑やかだった社員旅行がほとんどなくなりましたね。そして確かに一人旅が増え、ご年配の方が一人で泊まり温泉地を楽しまれています。

市長 着地型観光、循環型観光の時代になったと思います。地域にたくさん価値のあるものがあるので、それを発掘して磨いて、地域から発信していくことが大事です。

今までは、旅行代理店が添乗員を含めて案内していましたが、近年人口減や景気の悪化で、リスト

ラにより社員数が少なく添乗員も少なくなっている。そこで着地型観光、循環型観光を強化することによって、旅行会社は現地からの魅力ある情報を得てそれを商品化する。そして売り出していく。今からこの形態になってきます。阿蘇市においても、いかにコンシェルジェ(案内人)を育成していくか。このことで働ける場も出てくるし、また違った意味の産業も生まれてくると思います。ITなどの情報化社会になりましたので動きをいち早くキャッチして、将来の観光のあり方を作り出していかないと取り残されてしまいます。

農業を活かした観光

稲吉 阿蘇ブランドの知名度から、阿蘇のものは美味しいとのイメージを持っていたのですが、朝食に地元農家の採れたて野菜を出しますが、女性に人気で、阿蘇の野菜、阿蘇の卵、阿蘇の米というだけでお客さんはマジカルトッピングではないですけど、言葉の魔法みたいな感じで「阿蘇」とついただいで非常に美味しく食べていただいています。観光業は阿蘇の食材で売っていくべきと実

感しています。

和田 地元農家のものを使っていますが、とにかく美味しい。阿蘇は水が美しく美味しいからこんなにすばらしい野菜が採れるのだと思うと思います。納豆も粒の大きいものもあり、「珍しい」と観光客が関心を持って喜ばれており、地域と一体となって頑張ることが満足度の向上につながっていると思います。一緒にがんばっていきたいと思います。

前田 旅館や飲食店で料理を出す際、「これは阿蘇のどういったものですか」と訪れた人にわかるように説明をしてけると美味しさが増す気がします。

稲吉 阿蘇の大豆って美味しいですよ。震災後に東京の旅行会社の人たちに何か食べたいものはありませんかと尋ねたら納豆が食べたいというので200個送ったら、とても美味しいと絶賛で、阿蘇の大豆は喜ばれる力があると実感しました。

市長 観光で活かす米・野菜など素晴らしい素材を、外部の専門家



市長 よく観光農園というのがありますが、年中人が来ていないと維持するのに大変でリスクも大きい。そこで、ハウスを直接されている例えばアスパラやイチゴ、トマトの生産者の方々と連携して、実際実っている姿を見せる。お客さんに収穫してもらって、食事する処で料理してもらって収穫したばかりの野菜を食べる。そんな直接の体験型でないと、感動する満足というものがないと思います。旅館の方、農家の方、地域の方が一緒になってやっていけば、すぐにでも阿蘇の観光の底上げはできます。

オリジナル性を見出す

和田 お泊まりお客様の方が「世界中いろんな所へ行ったけど阿蘇ほどすばらしい所はないわ」とおっしゃられ、私も二重峠や北外輪山の上などから眺めると本当にそう思います。心癒すこの大阿蘇は偉大という気持ちを抱き、もっともつとこのすばらしさを伝えていかなければならないですね。

(アドバイザー)の目からキチンと点検をしていただいてその上で専門家から「阿蘇にはすばらしいものがある」と発信してもらうと、地元の人たちも新たな認識をされて、もっとがんばろうという気持ちになると思います。

阿蘇へ来ると、安心して食べられる米・肉・野菜が直かにあり、新鮮なものが食べられるという、それをリアルに表現して発信してくれる専門家がいると、より地域の人たちも実感がわくのではないかと思います。

前田 野菜をいろいろ加工され出されていますが、農家の方にどうやって食べたら一番美味しいですかと聞くと、「採れたてを生で食べるのが美味しい」と言われる。だったらそれが食べたい。そういうことです。皆さんが一番おいしいと思う食べ方を訪れた人に紹介してほしいのです。また、宮地で見つけたのですが水がきれいなところに自然にクレソンが生えていて驚きました。東京では小さな束が150円で売られています。阿蘇はすごい！

着地型観光へ力を注ぐことが 阿蘇のオリジナル性を もっと大きく輝くものにする。



阿蘇市観光協会長 稲吉 淳一氏

前田 阿蘇に代々伝わっている文化や生活の中にあるもの、お話をかをもっと掘り起こして大事にして、それをモチーフにして訪れた人たちに伝えていくことが阿蘇のオリジナル性を高める要素だと思います。

稲吉 本市は世界ジオパークへの認定、世界文化遺産への登録を目指しているので、観光の面からもバックアップして、もっと「阿蘇はジオパークなんだ！世界文化遺産を目指しているんだ！」「阿蘇市はこうなんだ！」という面を強調してアピールして、たくさんの方々に知っていただくよう取り組んでいきたい。

阿蘇市地域振興マネージャー 前田 香保里氏



健康ツアーとして、「阿蘇でしかできない」をポイントに企画した「健康・ダイエツツアー」は、標高が高い所で2泊3日ほどハイキングなど運動をして温泉に浸かって、その後家へ帰っても一か月間は効果が続くというもので、阿蘇の米や野菜を食べてダイエツということですから、それは大好評でした。

阿蘇は着地型の旅行が日本で成功している事例の一つではないかと思っています。例えば昨年参加者が500人だった「阿蘇カルデラツアー」は今年の参加者が1,360人と大きく伸びました。見たいところ体験したいところ

阿蘇の良さを地域の方々が よく知り、互いに情報交換を。

ろを地元をよく知るものこそが案内する着地型観光へ力を注ぐことが阿蘇のオリジナル性をもっと大きく輝くものだと思います。

市長 確かに今後の観光は「健康」がキーポイントだと思います。阿蘇は自然もあるし景色もいい。食べ物もおいしい、温泉もある。活用するには十分な環境が整っていると思います。

和田 地域のことを伝えることの大切さを痛感しています。「阿蘇カルデラツアー」で観光客を火焚き神事に連れていったらすごく感動されました。昔から続いているものは誰の心にも響く。波野には神楽もあります、阿蘇の伝統を伝えていきたいと思っています。また「健康・ダイエツツアー」では

血糖値もコントロールするというところで、リチウムが含まれた内牧温泉で心も体も癒してもらいますが、ちゃんと美味しいものを食べてダイエツトできるんですからオリジナルツアーとして伸ばしていきたい企画です。

稲吉 宮地は水が豊富。内牧は温泉。すぐ横にくっついて2つの財産があることをよその人たちが大変うらやましがられます。リチウムを含んだ温泉は珍しいんですよ。

前田 北海道でレンタカーを借りる際、サービスで、生のアスパラバスを配っていました。細かったので商品にならなかったものだと思いますが、採れたての美味しさといったら。生で食べさせる魅力ってとてもある気がします。阿蘇では、売り場や旅館の食事の場面でも野菜の説明を加えるともっと阿蘇の魅力を発信していくと思います。○○さんのトマトとかちょっと添えるだけで、とても目を引くものです。

来た人に印象と感動を 与えよう

前田 感動と印象というのは形がな



阿蘇温泉観光旅館協同組合女将の会ゆうすげ
会長 和田 久美子氏

いものだと思っんですね。心に訴えるもの、何か形があるものではない。最近インターネットでお土産のお取り寄せはできますし、写真や風景も中継画像で見ることができるようになりました。でも訪れてこそ感じられるのが、空気であったり、音や風とか。何より接した地元の人々の印象とか、そこから動かされる体験が重要じゃないかなと思います。

地元の人たちと一体となつたおもてなしが必要。阿蘇の伝統や歴史を伝えることにも努めていきたい。

の少しだけ自分の言葉で伝えていただきたいと思います。「どこから来たんですか」「阿蘇はこういう所なんですよ」とか、さりげない一言が訪れた人に阿蘇の印象を与えてとてもいい。ここへ来たから話を聞けた、ここへ来たからあの人に会えたという思い出を持って帰ってもらいたいなと思います。阿蘇市には大きなホテルもあれば、ペンションや古い旅館もある。いろんな方に楽しんでお泊りいただける。同時に地域で受け入れを頑張っている人たちがいます。ちょっとした努力でいいと思いますので、今よりも少し声をかけ、美味しい野菜があったら表示をつけてもっと知らせようとする。自分の歩いている道に雑草が生えていたら訪れてきた人が歩いたとききれいな方がいいから雑草を抜いてあげるとか花を植えるとか。自分に出ることは何かと考えると、そこから始めてみる。それが大きな力になると思います。

これからの観光地阿蘇に求められるもの

市長 たくさんさんの宝がありますの

で、これらの一つ一つ大事にすること、そして大事にしたいことを自分の誇りに思うこと。そのことがひいては訪れた方々に感じていただくものになると思います。多くの観光地を持っていますので、皆さんとonly oneを目指してがんばってきたいと思っています。世界文化遺産もジオパークもあります。未来の目的を目指すことによって、より課題が克服され、登録され認定されていくものと思います。

稲吉 変わってはいけないもの。それは、すばらしい自然環境だと思います。変わらなければならぬものは、私たち観光に携わる者。それにプラスして地元の皆さんも一緒に訪れた人に一声かけていただいたら、この阿蘇というのは、人々のそういった心遣いのスパイスがこの観光地に降り掛かったなら、何倍も何十倍も魅力あるまちになると思います。間違いない日本一の観光地になっていくでしょう。

和田 地元の人たちと一体となつたおもてなしが必要だと思います。町中の情報拠点「女将カフェ」をさらに充実させ、観光に携わる者として

Only One を目指して皆さんと頑張っていく。

阿蘇市長 佐藤 義興



阿蘇の伝統や歴史を伝えることにも努めていきたいと思っています。

前田 東京の同僚たちもそうですが、阿蘇には火口しかないと思っていました。来てみるとたくさんいいものがあって、まだまだ使われてない資源もたくさんあるなというのを実感しています。これから、阿蘇の良さをまづ地域の方々がよく知って、互いに情報交換をしながらだんだん大きくしていったほうがいいと思います。微力ではありますが今年も皆さまと一緒に阿蘇の魅力を発信していきたいと思っています。